

2022/09/26 (月)

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 10章 37-40節 (新約聖書51頁)

すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつ私たちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、喉が渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。いつ、見知らぬ方であるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』そこで、王は答える。『よく言っておく。この最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、私にしたのである。』

主は彼らと共に

イエスは子ども、女性、病にある女性、やもめ、娼婦と出会います。子どもと女性は男の財産であり牛や馬と同じでした。社会の辺境の地に追いやられた、汚れた罪人(ざいにん)でした。しかしイエスはそう呼ばれた人たちと共にいました。

実はイエス自身も私生児でした。お母さんのマリアは結婚前に妊娠しました。しかしお父さんのヨセフはマリアと赤ちゃんを迎えました。家族全員が罪人となります。そしてイエスは飼い葉桶に生まれ、すぐに命を狙われエジプトに逃れたのでした。

今年、戦禍を逃れようと多くのウクライナの人たちが近隣諸国や世界各国に難民として生活しています。現在、世界には約一億人の難民がいます。世界の約78人に一人が難民です。実は世界で最初に難民と呼ばれ支援を受けたのはロシアの人たちです。

難民に敵も味方ありません。ヨセフは逃避行の中で「神は我々と共におられる」という約束を信じました。世界の難民も一日一日を無事で生き抜き、故郷へ戻り家族と再会する日を信じ、互いに慰め励まし祈っています。主は彼らと共にいます。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたはすべての人が平和に生きるために、十字架により憎しみによる隔ての壁を除き、あなたによる和解の道が開かれました。どうか今、戦争、弾圧、災害などのために住まいを失い、離れ散らされた人びと、また飢えと病のうちにある人びと、ことにウクライナ難民の人びと、台風15号によって被災された人びとを憐れみ、その必要を満たしてください。また英和女学院、特に学びと活動の場が被災した家庭科に関わる教室、ホームクラブ、茶室と茶道部、書道部、吹奏楽部、同窓会室に集う方々を慰め、新たな活動へ向けて励ましてください。また台風の被害で断水などいまだ困難な生活にある生徒、ご家族を励ましてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン